

東京慈恵会医科大学 4附属病院広報誌

よつば

第8号



広報誌「よつば」について

東京慈恵会医科大学は4つの附属病院を有しています。「四つ葉のクローバー」のように4病院が有機的につながり合い、力を合わせ、患者さんを中心とした医療を実践していくという思いを込め、誌名としました。

Contents

特集

東京慈恵会医科大学 西部医療センター リニューアルオープン

東京慈恵会医科大学
西部医療センター 院長 平本 淳

TEAM JIKEI

～全ては患者さんのために～
病院を支えるコメディカルの紹介
(薬剤部編)

Jikei History Vol.7

評伝 学祖 高木兼寛 ー日本最初の看護学校ー

特 集

東京慈恵会医科大学西部医療センター リニューアルオープン

患者さんご家族に寄り添う医療体制の充実



1階 エントランスホール

東京慈恵会医科大学西部医療センター（東京都狛江市）は、2026年1月5日のリニューアルにあわせ、「東京慈恵会医科大学附属第三病院」から名称を変更しました。新たな名称は本院（東京都港区）より西部に位置することに由来しており、本学4病院1クリニックの中で、北多摩南部を中心とする東京西部の地域医療を担う役割を果たしています。

当院は一般病床494床を有する大学附属病院として、一般診療に加え、がんなど各種疾患に対応した専門医療も提供しています。

今回のリニューアルでは、「安全な医療と患者さんとそのご家族へ思いやりある対応で、地域で一番信頼される病院になる」というミッションのもと、医療の質と患者さんの安心を両立する環境づくりを進めてきました。

リニューアルにあわせ、患者さんやご家族が相談できる窓口や、診療機能の充実が図られています。今回はそれぞれの取り組みをご紹介します。

患者さんと地域をつなぐ窓口 患者支援・医療連携センター

新病院ではこれまでの総合医療支援センターを「患者支援・医療連携センター」へと改称しました。患者さんやご家族、地域の医療機関をつなぐ病院の窓口としての役割を担っています。医療連携室では紹介・逆紹介を通じて地域医療との連携を進め、ソーシャルワーカー室では退院後の生活や在宅療養を見据えた支援を行っています。在宅・入退院支援室とも連携し、入院前から退院後まで、患者さんを切れ目なく支えています。

脳神経・脳卒中センターの設置

新たに設置された脳神経・脳卒中センターでは、脳神経内科と脳神経外科が連携し、24時間体制で脳卒中診療を行っています。最新のMRI・CT装置や血管内治療を活用し、救急搬送から診断、治療までを迅速に行える体制を整えました。多職種によるチーム医療のもと、急性期治療からリハビリテーション、退院後の生活までを見据えた支援を行っています。

緩和ケア病棟の誕生

本学初となる緩和ケア病棟を開設しました。身体的な痛みや症状の緩和に加え、不安や心のつらさにも配慮し、その人らしく過ごせる時間を大切にしています。全室個室の病棟で、家族と過ごす時間も確保できる環境を整えました。当院に通院していない方も利用でき、地域に開かれた病棟として、専門的な緩和ケアを提供しています。



2階 外来フロア



3階 IVR 多目的血管撮影装置



7階 緩和ケア 病室



1階 救急車専用入口



3階 手術室 ダビンチ



1階 ガジュまるホール

高度医療を支える診療体制の充実

診療体制の充実を図る取り組みの一つとして、ロボット支援手術システム(ダビンチ)を導入しました。精密な操作により身体への負担を抑えた安全性の高い手術が可能となり、医師の技術向上にもつながることで、将来にわたって安定した医療の提供が期待されます。今後、各診療科で適切に活用しながら、治療の選択肢を広げていきます。

出産、産後、日常診療、患者さんに寄り添う医療環境

産婦人科では、無痛分娩を再開しております。従来から行ってきたソフロロジー分娩と併用することも可能で、一人ひとりの希望に沿った出産を支援しています。また、新たに産後ケアを開始し、出産後の心身の回復や育児への不安に寄り添う体制を整えました。

さらに、予防と健康づくりの拠点「ガジュまるホール」の新設や、中央検査部の自動受付機の導入など、日常診療における利便性向上にも取り組んでいます。

院長メッセージ



東京慈恵会医科大学
西部医療センター
院長

平本 淳

Jun Hiramoto

東京慈恵会医科大学西部医療センターでは、脳卒中やがん、緩和ケアなどの幅広い診療をチームで支え、患者さんご家族に寄り添った医療を提供しています。スタッフ一丸となり、安心・安全な医療で地域の皆さまに信頼される病院を目指してまいります。

TEAM JIKEI

～全ては患者さんのために～

病院を支えるコメディカルの紹介(薬剤部編)

病院を支える医師以外の職種(コメディカル)について、ご紹介するコーナーです。

6回目を迎える今回は、薬剤部の業務をご紹介させていただきます。



附属病院(本院)
薬剤部
部長

川久保 孝

Takashi Kawakubo

薬剤部では、病院の理念に基づき、「高度・複雑化する薬物治療に高い専門知識と豊かな人間性で貢献する」をビジョンに掲げ、患者さんや医療スタッフから信頼され、安心安全な薬物療法の推進に努めています。

無菌調製業務

薬剤師は、抗がん剤や栄養剤などの注射薬を専用の作業台で無菌的に調製し、細菌汚染を防ぐことで、患者さんが安心して治療を受けられるよう支援しています。また、抗がん剤を不必要に触れたり吸い込んだりしないよう注意し、医療スタッフ自身の安全確保にも努めています。無菌調製は、患者さんと医療者の双方の安心と安全を支える重要な業務です。



附属病院(本院)
薬剤師

鮎川 英明

Hideaki Ayukawa

調剤業務

医師の処方箋に基づき薬の用法・用量(使用方法・使用量)や飲み合わせに問題がないか、併せてアレルギーや副作用歴を確認する処方監査(処方内容のチェック)を行った後、調剤(薬の取り揃え)を行います。錠剤および粉薬の自動調剤ロボット、一包化(服用時間で1回分ずつまとめる)の機械を活用し、安全かつ正確に薬を提供しています。



葛飾医療センター
薬剤師

筒井 知香華

Tikage Tsutsui

病棟業務

病棟薬剤師は医師や看護師と協力し安全な薬物治療に努めています。入院時、患者さんの持参薬を確認し入院中の治療に影響がないかをチェックしたり、治療薬の効果や副作用について丁寧にご説明します。退院時は入院中のお薬の情報を地域薬局へ情報提供することで、自宅療養まで切れ目のない支援を届けます。お薬の疑問や不安はいつでもご相談ください。



西部医療センター
薬剤師

高橋 苑子

Sonoko Takahashi

チーム医療(薬剤師外来)

チーム医療とは、多職種と連携し、専門性を発揮することで患者さんに最適な医療を提供することです。薬剤師は、薬の専門家として薬学的知見に基づき、より最適な薬物治療の提案を行っています。がん薬物療法では、医師の外来診察前に面談を行い治療の質を高め、薬物治療のプロフェッショナルとして寄与しています。



柏病院
薬剤師

林 隼輔

Shunsuke Hayashi



Vol.7

日本最初の看護学校

明治14年から20年までの6、7年間は、高木兼寛にとってきわめて多忙な時期であった。成医会講習所(慈恵医大の前身)の設立、有志共立東京病院(慈恵医大附属病院の前身)の開設、さらに脚気病予防のための海軍兵食の研究、改善など、みなこの時期であった。

これらの事業を同時にすすめるに当たって、兼寛にはある共通のやり方があった。それは同志と話し合い、ある程度話がまとまったら、さっそく走り出し、あとは走りながら考え、改善していくというやり方であった。そして不思議なことに、走っているうちに、兼寛の行動に感動して援助を申し出る人が必ず現れるのであった。この第七話は有志共立東京病院に看護婦教育所を設立するときの話である。

この病院は、貧しい病人を無料で診療するためのいわゆる慈善病院であったため、常に有志者、篤志家からの援助金が必要であった。幸い、鹿鳴館に出入りする貴族婦人が、この病院の設立趣意に感動して「婦人慈善会」を結成し、病院の経営を助けてくれることになった(明治17年5月)。

ある日、大山巖伯爵夫人・捨松ら婦人慈善会の有力メンバーは、病院の招きで病室を見学することになった。捨松は、わが国最初的女子留学生として11年間米国に留学し、帰国したばかりであった。しかも最後の2年間はニュー・ヘブロン病院の看護婦養成所で学んだばかりであったので、日本の病院の看護婦事情に大変興味があった。ところが彼女が病室を訪ねて驚いたのは、正規の看護婦が一人もいないことであった(これは日本にまだ看護学校が一つもなかったのだから当然であった)。早速、高木兼寛院長に「西欧の病院ではかならず正規の看護婦を採用しているのをご存知のはず、しかもナイチンゲールゆかりのセント・トーマス病院に留学なさった院長がどうして正規の看護婦を養成しようとなさらないのですか」と質問し

た。(たしかに兼寛が留学したセント・トーマス病院は、あの有名なナイチンゲールが創立した看護学校を付属しており、しかも兼寛はそのナイチンゲールの患者中心の医療思想に心酔していたのである)。この捨松の質問に院長はそつと一言「ごもっともなご意見ですが、何分にも経費が足りなくて看護婦の養成まではとても手がまわりません」と答えた。

これを聞いた捨松は、米国で学んだ経験を生かして、ひとつバザーを開いてこの病院のために資金を集めてみようと思立った。今でこそ、「慈善」とか「バザー」という言葉はさして珍しくなくなったが、その頃の日本にはまだ人のために働いてお金を集めるなんていう考え方はなかった。



明治17年6月12日から三日間、華やかな話題を振りまいていた鹿鳴館を会場にして、捨松らの「鹿鳴館慈善バザー」なるものが開かれた。出品は華族夫人、令嬢たちの手芸品など3000点で、これを館内13箇所に陳列して、夫人や令嬢たちが販売、サービスを受けもつのである。前代未聞のことで大評判になり、入場者はのべ1万2000人、入場制限する

ほどの大盛況になった(この時の光景は、有名な揚洲周延筆、錦絵「鹿鳴館貴婦人慈善会図」になっている)。バザーはこのように予想以上に好評だったので、翌年にも11月19日から三日間、再度、鹿鳴館で開催された。このときには、皇太后、皇后両陛下がご出席になり、婦人慈善会ならびに有志共立東京病院の慈善事業に深い関心を示された。

この二度にわたるバザーで得られた収益金は実に1万5000円に達し(現在の価格にしてほぼ1億5000万円)、そっくり病院に寄付された。病院では、これをもとにして煉瓦造りのしょうやかな建物を新築し、看護婦教育所にした(開設は明治18年春)。これこそわが国最古の看護学校であり、今日の慈恵看護専門学校の前身である。

TOPICS

JIKEI VIDEOS 学校法人慈恵大学ビデオ

動画サイト「JIKEI VIDEOS」をご紹介します。

各診療科の専門医による疾患解説や治療法の説明動画のほか、過去の公開講座のアーカイブなども掲載しています。ぜひご覧ください。



過去の公開講座はこちら



専門医紹介動画はこちら

Access

西部医療センター

〒201-8601 東京都柏江市和泉本町4-11-1

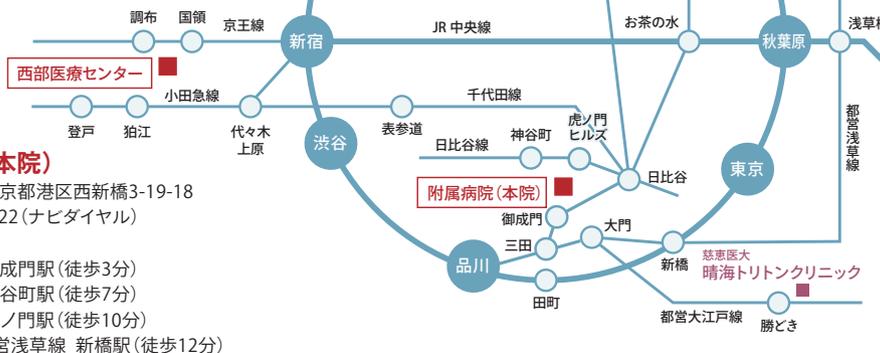
☎ 03-3480-1151 (大代表)

Access

京王線 国領駅 (徒歩12分)

京王線 調布駅 (バス10分)

小田急線 柏江駅 (バス10分)



附属病院(本院)

〒105-8471 東京都港区西新橋3-19-18

☎ 0570-03-2222 (ナビダイヤル)

Access

都営三田線 御成門駅 (徒歩3分)

日比谷線 神谷町駅 (徒歩7分)

銀座線 虎ノ門駅 (徒歩10分)

JR・銀座線・都営浅草線 新橋駅 (徒歩12分)

柏病院

〒277-8567 千葉県柏市柏下163番地1

☎ 0570-04-7164 (ナビダイヤル)

Access

JR常磐線 北柏駅

(徒歩10分/バス5分/タクシー5分)

JR常磐線 柏駅

(徒歩25分/バス15分/タクシー10分)

葛飾医療センター

〒125-8506 東京都葛飾区青戸6-41-2

☎ 0570-009-119 (ナビダイヤル)

Access

京成線 青砥駅

(徒歩10分/バス6分/タクシー5分)

JR常磐線 亀有駅

(バス10分/タクシー5分)

発行者：学校法人 慈恵大学 広報課 <https://www.jikei.ac.jp>

本誌の記事はWEBサイトでもご覧いただけます

